

Makuhari's Memory

充実した市町村アカデミーでの研修5日間

私は、令和2年1月20日から1月24日まで、観光戦略の実践という研修を受講しました。受付で「代表幹事をお願いします」と言われ、自分に務まるだろうかと思いましたが、全国から集まった65名の受講者の協力により、無事に代表幹事の役目を終えたことにほっとしています。

研修については、5日間であったものの、終わってみれば非常に短いと感じるほど内容の濃い研修でありました。インバウンド、交流人口の増加、地方創生など、これまでぼんやりとしか分かっていなかったものが、研修によりはっきりと理解できたと思います。

また、課題では毎日討議を行っていたものの、発表前夜はパワーポイントの作成が終わらず、演習ルームから宿舎のPCルームへみんなまで移動し、夜中までかかって作成したほどでありました。これほど時間を費やしたのは、班員みんなが観光に対する熱い思いを持って意見を述べるため、それを集約するのがなかなか難しかったからだと思います。



本市は、2024年に多賀城創建1300年を迎え、それまでに南門の復元を完成する予定となっていますが、この研修で学んだことを他の職員へも共有し、南門の観光活用に活かしていきたいと思います。

最後に、アカデミーの職員の皆様、講師、担当教授、副幹事、座長及びクラス委員の方々、そして快く送り出してくれた職場の皆様に感謝いたします。ありがとうございます。

志摩 謙一

宮城県多賀城市
商工観光課長
〈受講研修科目〉
観光戦略の実践
第33期第1組（令和元年度）

市町村アカデミー研修を振り返って

「あっという間、ただ大変濃密で有意義5日間でした」。これが今回の研修を振り返った率直な感想です。

今回、文化・芸術の活用による地域社会の活力の創造を受講させていただきました。受講前は研修への期待と不安が交錯しつつアカデミーへ向かい、そして入寮時に「代表幹事をお願いします」との一言。不安は最大限ともなりました。しかし、いざ研修に入ると、その不安を感じる暇も無くなるくらい、講義、課題演習へと進んでいきました。

今回の研修は文化・芸術行政を扱っていましたが、著名な講師陣による具体事例を挙げながらの講義は、まさに目から鱗の内容ばかりでした。内容もちろんですが、業務に取り組む際の視点や意識をいかに持つかについても教えていただきました。

課題演習では、各班それぞれのテーマに対し、真剣に討議を重ねており、夜遅くまで議論が続いた班もあったようでした。私の所属したG班でも座長のスムーズな運営の下、全員が真摯に議論を重ねつつ、様々な意見交換もさせていただきました。そして、最終日の発表では、各班それぞれ

の明確な主張が伝わってきました。

今回、同期の皆さん全員と言葉を交わすことができなかったことが大変悔やまれますが、この研修で各自治体の職員の方々との繋がりを持ったことは、私にとって大きな財産ともなりました。

最後になりますが、講師の皆様、担当の吉田教授、そして北は北海道、南は沖縄までの45名の同期生の皆様には感謝申し上げます。またいつかお会いできる日を楽しみにしています。



加覧 淳一

宮城県都市
教育委員会文化財課主査
〈受講研修科目〉
文化・芸術の活用による地域社会の活力の創造
第33期第1組（令和元年度）

Makuhari's Memory

あっという間の9日間でした

「いつもは代表幹事にお願いするんだけど、そればかりじゃつまらないから、今回はノリのいい座長の君にお願いするよ」と担任教授に依頼されましたので、素面のときはノリが悪く陰気なわたしですが、研修の思い出を寄稿させていただきます。

振り返ってみると、中身が濃く充実した、本当にあっという間の9日間でした。アカデミーに来るまでは、見ず知らずの土地で初対面の方々と9日間過ごすということに、非常に不安を感じていました。さらには受付時に「あなたは座長です」と告げられたときは、重圧に押しつぶされる思いで、そのまま群馬に帰ってしまおうかと思ったほどです。

しかし、いざ研修が始まると、周りの仲間のやる気と熱意に取り込まれ、充実した毎日を過ごすことができました。特にグループ討議においては、初めは固い雰囲気であったものの、回数を重ねるごとに議論が活発になり、短期間で納得のいく成果を出すことができました。また、不慣れで頼りな



い座長でありましたが、年上のメンバーには足りない部分をカバーしていただき、年下のメンバーには積極的にアイデアを出していただき、メンバーには感謝の念でいっぱいです。9日間の共同生活でしたが、何年も一緒に仕事をしてきた仲間のように楽しかったです。

最後に、今回の研修でお世話になったアカデミー職員や講師の皆様、そして9日間を切磋琢磨した仲間の皆様に感謝申し上げます。またどこかでお会いできることを楽しみにしています。

稲川 雅樹

群馬県みどり市
都市建設部都市計画課都市計画
係主査
〈受講研修科目〉
政策企画
第33期第1組（令和元年度）

すべての議論は未来に通ず。

東京2020オリンピック・パラリンピックイヤーの幕開けで、心躍る新年を迎えたはずなのに、市町村アカデミー入校日となった令和2年1月28日は、大型の寒波到来による関東・甲信越地方への大雪警報が出されており、新たな感染症に関する報道もありました。

このような社会情勢の中、全国の自治体から「介護施策の在り方」を選択して集まった44名の受講生の前で「代表幹事を仰せつかった」旨の挨拶をして、私の研修は始まりました。

講義は、介護保険制度の成り立ちや変遷、各事業の導入の経緯など、地域包括ケアに関する事案や取り巻く状況などを広く習得できる内容であり、課題演習では、グループに分かれて地域包括ケアが抱える諸課題について、様々な視点で議論を重ねました。

私たちのグループは、職員の経験年数や所属する自治体の状況の違いなどから意見の齟齬もありましたが、都度、言葉の定義を確認し合いながら議論を進め、「地域」をキーワードとする2つのコンセプト「愛着×連携」、「既存事業×誇り」を生み出し、これらに沿って具体的な事業案を作り、寸劇を交えて発表をしました。



「議論することを恐れてはいけません。変えることを恐れてはいけません。どんな優秀な一人の考えよりも10人で真剣に議論して導き出した結論のほうが、その人数以上の成果がある」。私が尊敬する上司の言葉です。

市町村アカデミーでの研修は、まさに議論が持つ無限の可能性を学ぶことができた研修であったと感じています。

まもなく、オリ・パラ聖火リレーが全国を回ります。受講生が所属する自治体を聖火ランナーが走る時、私たちは、受講生の顔と名前と過ごした時間を思い出すに違いありません。そして、また集まりましょう。「私たちが目指すものはなにか。そして、何を残していくのか」を語り合うために。

小島 淳史

埼玉県さいたま市
いきいき長寿推進課課長補佐兼
地域支援係長
〈受講研修科目〉
介護施策の在り方
第33期第1組（令和元年度）